

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東淀川区
学校名	小松小学校
学校長名	杉原 伸行

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・小松小学校では、第6学年 117名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の全国学力学習状況調査の結果では、国語科の平均正答率は67%で大阪市平均を上回り全国平均を少し上回った。算数科の平均正答率は58%で全国・大阪市平均と同等の結果であった。

平均無回答率においては、国語科が1.6ポイント、算数科が0.4ポイントとそれぞれ全国平均を下回っていることから、児童は意欲的に問題に取り組んだ結果だと思われる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均正答率は大阪市平均を2ポイント上回り、全国平均と同等の結果であった。

内容別では、「A 話すこと・書くこと」を除く全領域で上回る結果となった。特に「C 読むこと」は大阪市平均を3.7ポイント上回った。「A 話すこと・書くこと」は全国平均を3.3ポイント下回る結果となった。

〔算数〕

平均正答率は全国平均・大阪市平均と同等の結果であった。

内容別では、「B 図形」を除く全領域で同等もしくは少し上回った。特に「C 変化と関係」は全国平均を3.4ポイントと上回る結果となった。記述式問題は「B 図形」は全国平均を1.4ポイント下回る結果となった。

〔理科〕

平均正答率は大阪市平均と同等の結果で、全国平均を2.1ポイント下回った。

内容別では、「粒子」「生命」は大阪市平均を上回る結果であった。「エネルギー」「地球」は大阪市平均を下回る結果となった。「理科の学習は好きですか」の質問では、全国・大阪市平均より10ポイント以上低く、理科に対する苦手意識をもつ児童が多いことが分かった。

質問調査より

「自分にはよいところはあると思いますか」では、肯定的な回答が88.7%と全国・大阪市平均を1.8ポイント上回っている。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、全国平均と同等の結果となっていることから、安心して学校生活が送られていると考えられる。「将来の夢や目標を持っていますか」では、肯定的な回答が90.4%と全国・大阪市平均を7.3ポイント上回っている。一方、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」では、73.1%と全国・大阪市平均を15ポイント以上も下回っている。昨年度からポジティブ行動支援(PBS)に取り組んでおり、自己肯定感や目的意識は高められてきた。今後は学校行事などの工夫を通して、日常の小さな成功や感謝を共有する場面を増やしていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

本校の児童には、おおむね基礎的な学習内容の定着が図られていることが分かった。全国平均と比べ、各教科の領域で見ると下回るものもあるが、大きく下回るものはいくつかの領域に限られ改善策も見出すことができた。昨年度まで国語科において大阪市の学力向上支援チーム事業を受け、スクールアドバイザーの指導・支援による授業改善に取り組んできた。学習指導の実践を振り返り、研修等で共有してきた。今年度は算数科において大阪市の学力向上支援チーム事業を受け、スクールアドバイザーの指導・支援による授業改善に取り組み、よりよい実践となるようにしていく。児童質問紙の「学校へ行くのは楽しい」の項目の数値が低いことから、魅力ある学校づくりをめざしていく。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについてわかるまで教えてくれる」では全国平均を上回ったことは、成果として今後も続けていく。

【 全体の概要 】

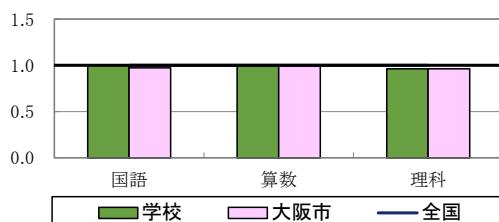
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	67	58	55
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

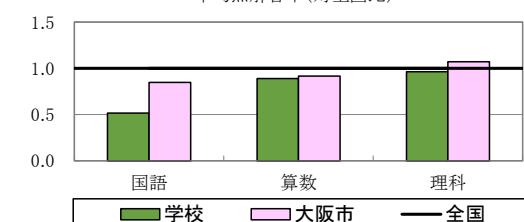
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.7	3.2	2.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



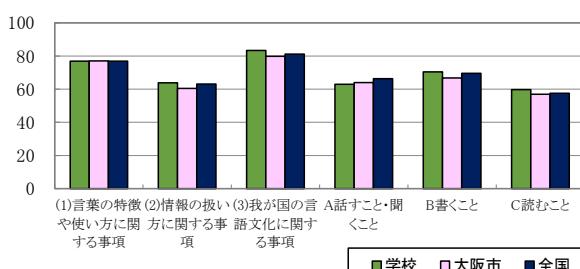
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	76.9	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	63.9	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	83.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	63.0	64.0	66.3
B 書くこと	3	70.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	59.7	56.9	57.5

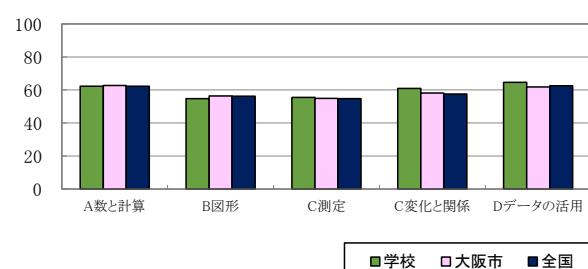
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	62.3	62.7	62.3
B 図形	4	54.8	56.4	56.2
C 測定	2	55.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	60.9	58.2	57.5
D データの活用	5	64.6	61.9	62.6

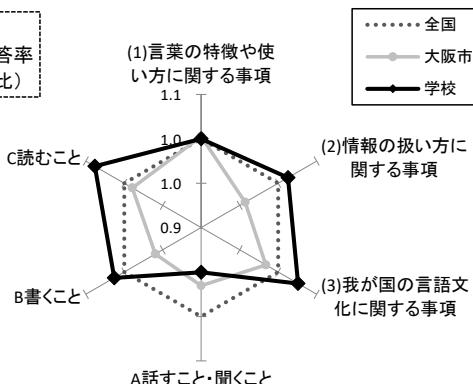
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



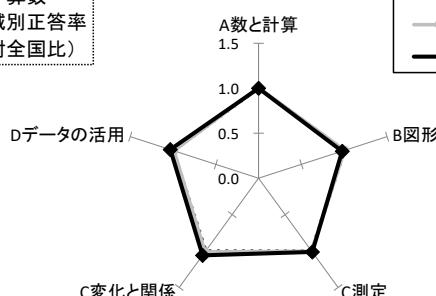
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

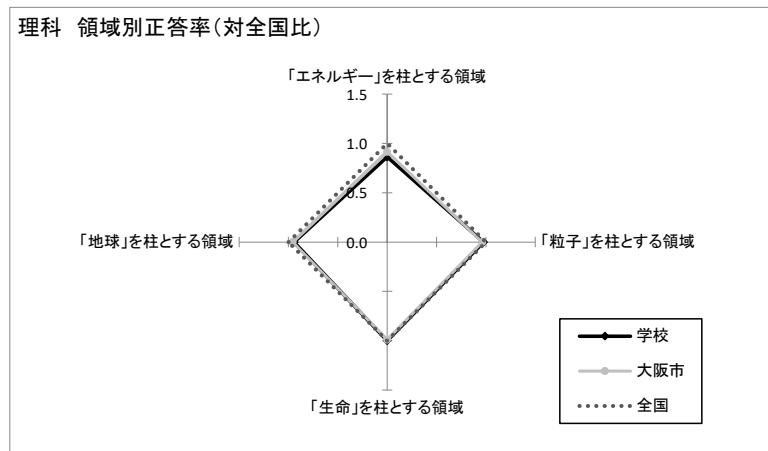
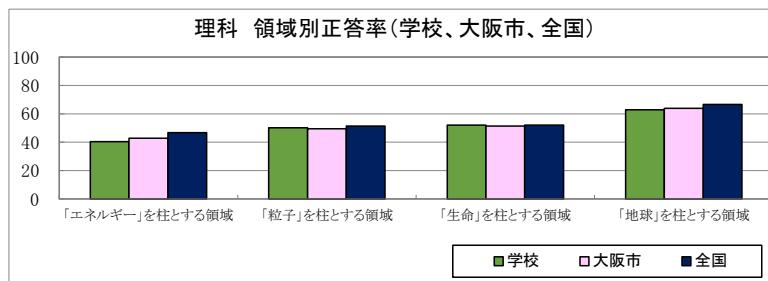


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	40.3	42.7	46.7
	6	50.2	49.5	51.4
B 区分 「粒子」を 柱とする領域	4	52.0	51.4	52.0
	6	62.9	63.8	66.7



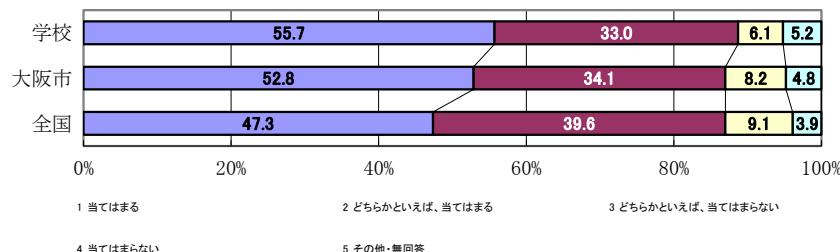
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

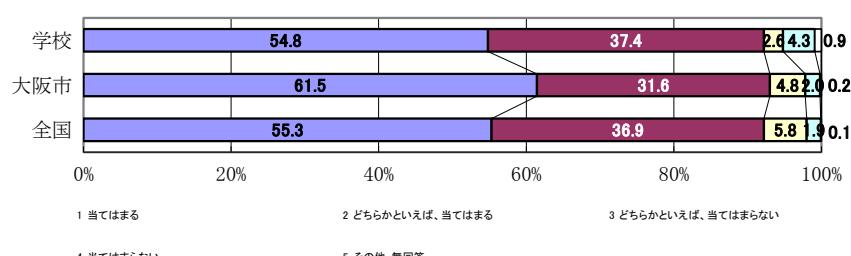
5

自分には、よいところがあると思いますか



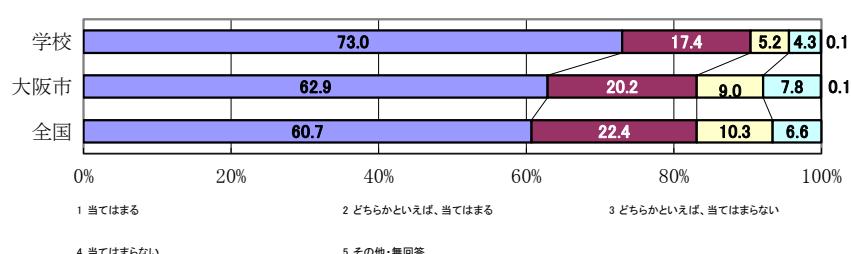
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



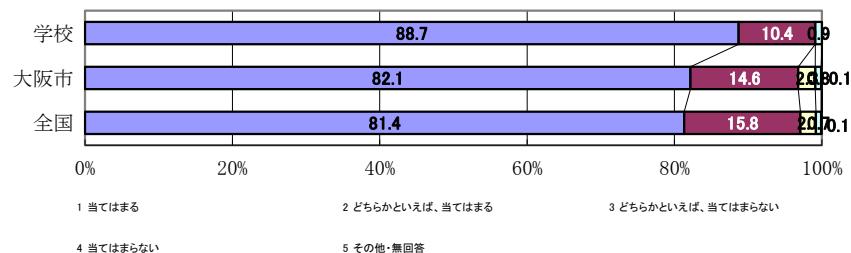
7

将来の夢や目標を持っていますか



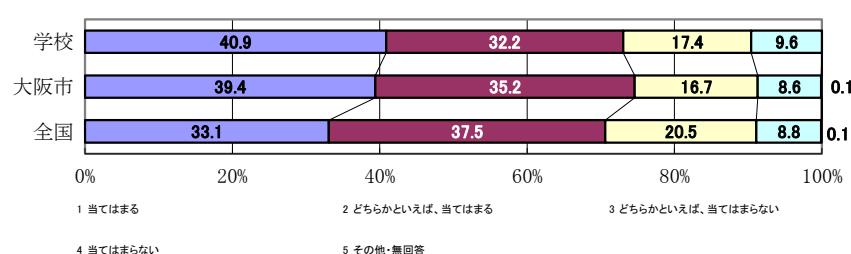
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人についても相談できますか



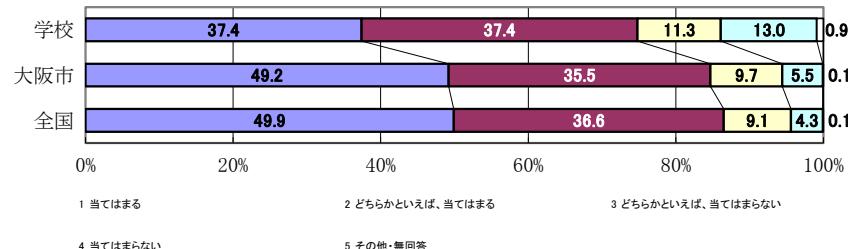
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

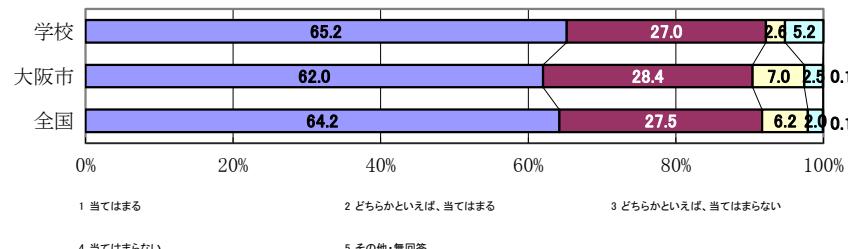
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



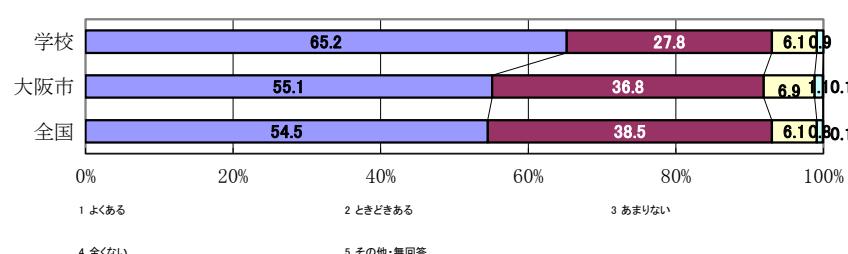
14

友達関係に満足していますか



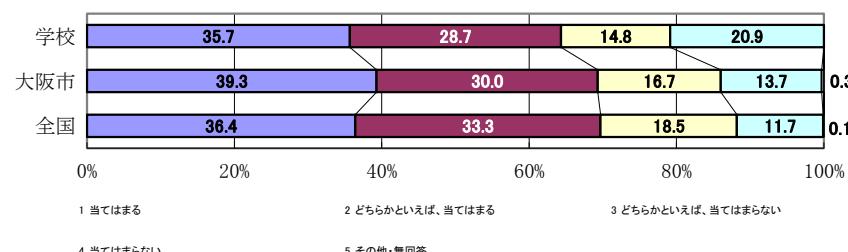
15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



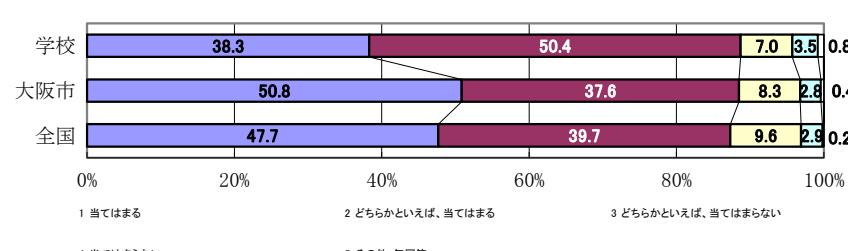
24

読書は好きですか



38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



学校質問より

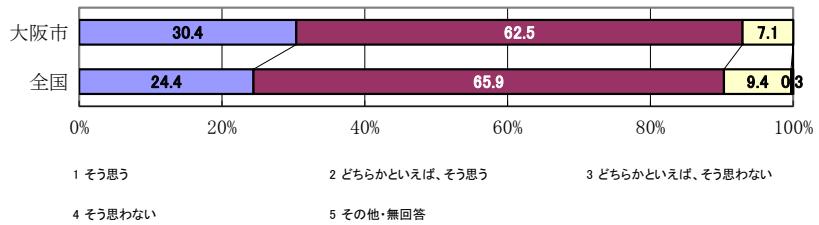
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

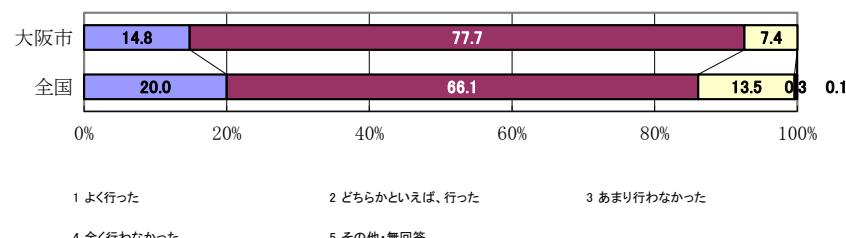
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



9

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

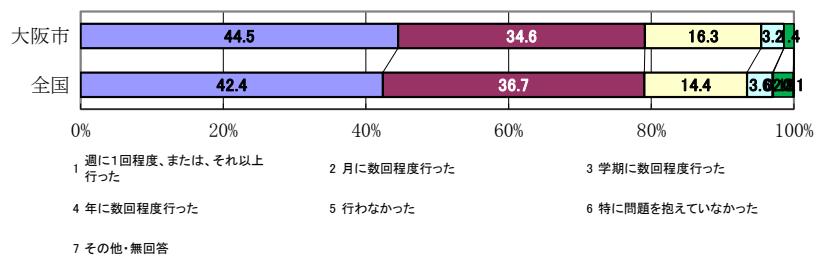
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



11

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

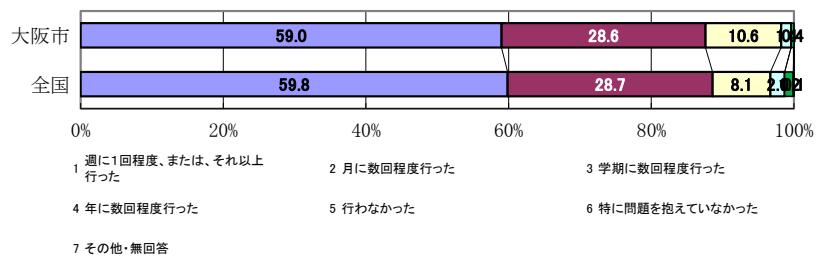
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

学校 「十分に取り入れている」を選択

